

News Letter

自治医科大学附属病院 卒後臨床研修センター

令和
2年
1月

冬晴れの空が美しい季節となりました。皆様おかわりなくお過ごしでしょうか。さっそく Newsletter 第23回配信です！ どうぞお楽しみください。

<診療科紹介 耳鼻咽喉科>

学生のみなさん、こんにちは。耳鼻咽喉科を紹介します。

耳鼻咽喉科は、脳を除く頭部から頸部までの範囲をカバーしており、耳鼻咽喉科・頭頸部外科と名乗ることもあります。また、小児から老人まで幅広い年代を対象としています。当科では、西野教授（主任教授）の専門である頭頸部外科学と、伊藤教授（こども医療センター教授）の専門である耳科学をメインに診療をしております。

年間手術件数は、術式別で年間約 1,000 件と多数の手術を行っており、頭頸部癌の長時間手術から、小児の人工内耳手術まで多彩な手術を行っているのも特徴です。今後はさらに、喉頭機能外科部門が科内に新設され、音声外科学を専門とする教授が着任予定です。

初期研修では 1 ヶ月間ローテートして下さる方が多いですが、耳鼻咽喉科の基本的な診療方法を学んでいただくほか、気管切開術や口蓋扁桃摘出術などの基本的な手術も経験していただいています。なお、当科は、日本耳鼻咽喉科学会、日本アレルギー学会、日本頭頸部外科学会の研修施設として認定されており、日本耳鼻咽喉科学会専門医、日本アレルギー学会専門医、頭頸部がん専門医の各専門医資格が取得可能です。

当科では女性医師の働きやすい環境も整えており、数年前には、大学内で勤務する医師の半数が女性という時代もあったほどです。現在は割合が減っているものの、派遣中も含めると常勤医 14 人中 5 人の女性医師が活躍しています。出産・子育てなど、女性医師のライフイベントにも時短勤務等で柔軟に対応している他、カンファランスの時間を変更し、女性医師でも参加しやすくするなどの対策を講じております。女性の方の入局も歓迎いたします。（写真はカンファ後ですが、撮影時は女子が少なくてすみません・・・）

皆さんが自治医大に初期研修に来られたら、耳鼻咽喉科もローテートしていただければ幸いです。医局員一同、心よりお待ちしております。



【医師国家試験予想問題】

当科が力を入れている分野が頭頸部腫瘍のため、同分野からの問題を用意してみました。

●問題 1

中咽頭癌について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 喫煙と飲酒が発生に關与する。
- b ヒトパピローマウイルス〈HPV〉が発生に關与する。
- c Epstein-Barr ウイルス〈EBV〉が発生に關与する。
- d ヒトヘルペスウイルス6〈HHV-6〉が発生に關与する。
- e 組織型では腺癌が大多数を占める。

正 解：a、b

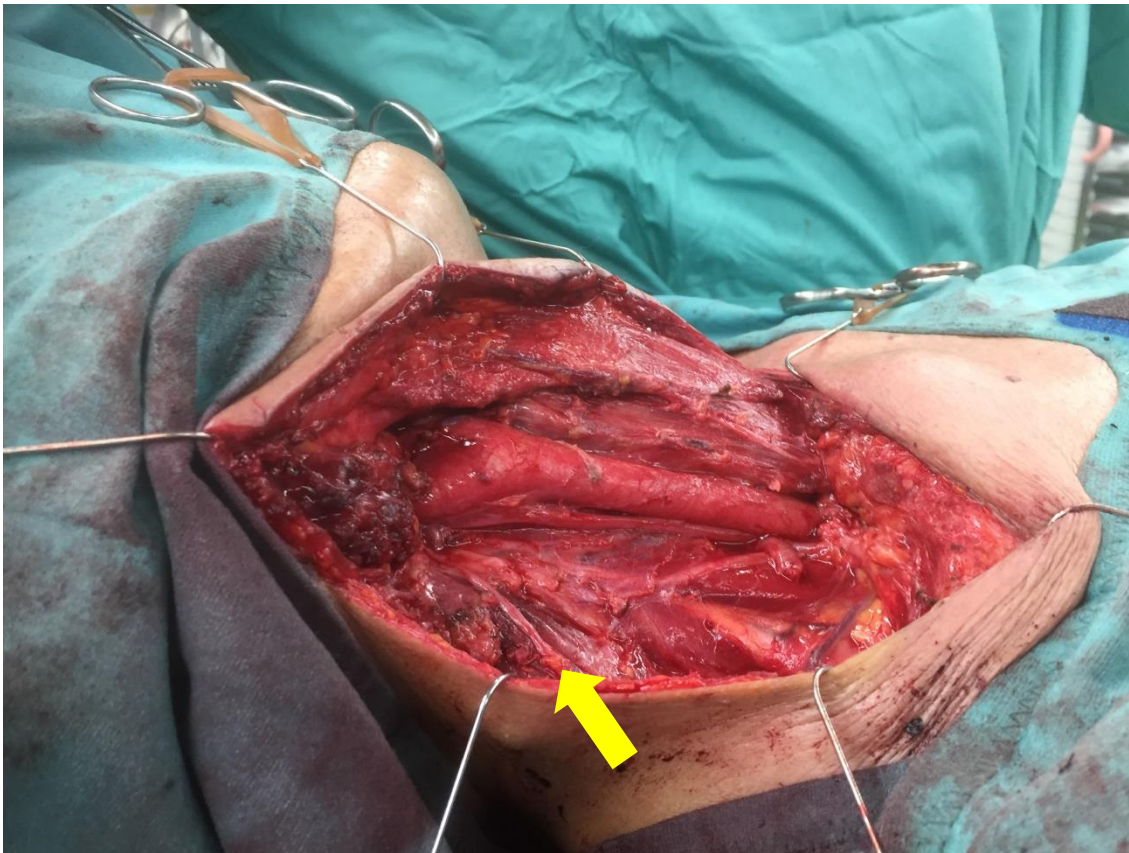
解 説：中咽頭癌の組織型では扁平上皮癌が大部分を占め、他の組織型は稀です。中咽頭「癌」ではないですが、悪性リンパ腫が中咽頭に腫瘍を形成することもあります。HPVが關連する中咽頭癌は治療への反応性が良いことや、転移したリンパ節に嚢胞様の陰影を形成しやすいことなどが知られています。EBVは上咽頭癌の発生に關与することが知られています。

●問題 2

甲状腺癌の頸部リンパ節転移に対する、頸部郭清術の術中所見を示す。右頸部の写真であり、写真の左側が頭側である。胸鎖乳突筋、肩甲舌骨筋および内頸静脈は切除されている。矢印で示す神経は損傷により日常生活動作の障害を来しうる（分枝は切断されている）。

神経名はどれか。

- a 顔面神経（下顎縁枝）
- b 迷走神経
- c 横隔神経
- d 副神経
- e 交感神経幹



正 解：d

解 説：副神経麻痺は頸部郭清の代表的な合併症であり、僧帽筋麻痺をきたす。僧帽筋麻痺は肩関節の可動域制限や肩周囲痛をきたし、QOL〈Quality of Life〉の低下につながるため、術後のリハビリテーションが重要である。近年の医師国家試験でも、手術（喉頭摘出術）や放射線治療の後遺症を問う問題や、実際の内視鏡写真から頭頸部癌の発生部位を問う問題が出題されており、より実臨床に直結した知識を問われることが多い。頭頸部癌治療に伴う合併症や、頭頸部癌の発生部位別の内視鏡所見、肉眼所見や画像所見は一度、知識を整理しておくことが望ましい。